福田　稔 教授

私の読書・研究スタイル！

文献を読む時のアイテムを紹介します。筆記具はカラーマーカー５色と色鉛筆2本ですが、色の使い分けは学生時代から一貫しています。鉛筆は三菱の4Bで、シャープペンシルは2Bか3Bです。付箋は3種類ほどです。

飲み物は、学生時代のゼミや読書会では紅茶中心でしたが、2度目の留学あたりからコーヒー中心へ。豆を挽いて淹れます（豆は高鍋町のエルザで購入）。マグカップは青色系（左の写真）です。水と緑茶もよく飲みます。PCと辞書を使って疑問を感じた時にすぐ調べます。

読書は、椅子と周りの音を確認しながら場所選びから始めます。筆記具類は鉛筆と付箋だけです。飲み物は研究時とほぼ同じで、これに国内外のお菓子が加わります。今は飼っていませんが、猫は読書のお供でした。本を噛んだりするのが玉に瑕でしたけど。

お気に入りの本、学生に読んでほしい本

読んでわかるとはどういうことか、また、わかりやすい文章を書くことなどについて、作者（森本哲郎）の大学生時代などの体験を紹介しながら説いていくスタイルです。大学教員になる前の1989年の夏に人吉市立図書館で偶然見つけて読みました。大学教員になって、最初に学生たちに勧めた本の一つです。ちなみに、買ったのは最近で、古書でした。

『ぼくの作文学校』
森本哲郎著／角川書店
〈閲覧室：914.6||Mo55〉

来・ぶらり「学生リクエスト」を活用しよう !!

本学学生の皆さんは図書館未所蔵の資料について、webOPAC から購入依頼（リクエスト）をすることが可能です。上限額は一人につき、同一年度内で合計2万円です。右の QR コードからリクエストページにアクセスできます（要ログイン）。ぜひご利用ください！

★ログインの際の利用者 ID およびパスワードは MMU Portal と同様です。
★予算の関係上、年度途中であっても、リクエストをお受けすることが出来なくなる場合がありますので、あらかじめご了承ください。なお、上限額は今後変更になる場合もあります。
★ 申し込みの前に、webOPAC にて、学内所蔵の有無を確認し、所蔵の無い資料について入力依頼してください。
★ 購入依頼画面の「3．通信欄」の「備考」にリクエスト理由を１００字以内で入力してください。
★ 雑誌、問題集、漫画などは、リクエスト出来ません。その他、資料収集方針に合致しない図書については、購入依頼を却下させていただきます。

INFORMATION

ウォーターサーバーを導入しました！

令和７年８月から図書館のクロスラウンジにウォーターサーバーを導入しております。
マイボトル専用でどなたでもお使いいただけます。是非ご利用ください！
※ウォーターサーバーは宮崎公立大学後援会の支援により設置されております。

宮崎公立大学附属図書館 広報紙『Camellia』Vol.14（2026年3月13日）
発行：宮崎公立大学附属図書館 〒880-8520 宮崎市船塚1丁目1-2　TEL0985-20-4814 https://www.miyazaki-mu.ac.jp/library/

Camellia Vol.14

―図書館広報紙―

【CONTENTS】

コラム：私の読書・研究スタイル ・・・・P.1～4
来・ぶらり ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・P.4
INFORMATION ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・P.4

Column

私の読書・研究スタイル

今回は公立大学に所属する６名の先生方に研究や読書に関する独自のスタイルやアイテムなどをお聞きし、あわせてお気に入りの本や学生に読んで欲しい本をご紹介いただきました！

田川　要　講師

私の読書・研究スタイル！

私は研究に集中するため、余計な思考をできるだけ排し、日常の行動をルーティン化している。朝は7時30分から8時30分に出勤し、PCを立ち上げて10分間のストレッチを行いながら前日に作成した「To Do リスト」を確認する。内容は日によって異なるが、基本は論文執筆である。ただ、どれだけ好きな仕事でも集中力には限界があるため、「ポモドーロ・テクニック」を用いている（左下の写真）。これは1980年代に考案された時間管理法で、25分作業と5分休憩を繰り返すことで集中を持続させる方法だ。午前中はこのリズムで作業を進め、昼食後には筋トレと30分のウォーキングを欠かさない。これは食後高血糖による糖尿病や動脈硬化の予防に加え、血糖スパイクによる集中力低下を防ぐ目的がある。午後もポモドーロで作業を継続し、20時には大学を後にする。これが私の日々のルーティンである。

お気に入りの本、学生に読んでほしい本

数年前から、研究論文や科研費申請書をよりよくすることを目的に、読書を習慣化している。ジャンルは幅広いが、最近はミステリー小説に傾倒している。その中でも学生に紹介したいのが『六人の嘘つきな大学生』である。一昨年映画化もされ、タイトルを知っている者も多いだろう。物語は、大手IT企業の内定をめぐる集団面接を舞台としており、人間の善悪や本音と建前が浮き彫りにされていく。読み進めるうちに「自分なら仲間とどう向き合うだろう」と考えさせられる。これから面接に臨む学生にとって、自分をどう表現し、他者とどう関わるかを学ぶきっかけになる一冊である。

『六人の嘘つきな大学生』
浅倉秋成著／KADOKAWA
〈閲覧室：913.6||A85〉

宮崎公立大学附属図書館

Column
私の読書・研究スタイル

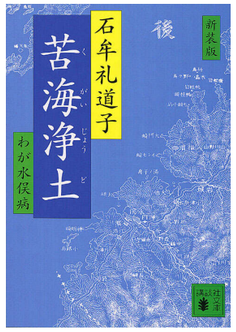
茶園　梨加 准教授

私の読書・研究スタイル！

講義室に書籍を運ぶときに、風呂敷（下の写真）を使っています。特に、大判の画集を持っていく時に便利です。大学院生の頃に購入して以来、大小の二種類を約15年愛用しています。知り合いの方が、いつも本を風呂敷に包んで持ち歩いていたのがきっかけです。真似したのです。大変便利ですので、旅先でも重宝します。20代後半の頃だったでしょうか、神保町で古本を買い、風呂敷に包んで羽田空港までの電車に乗りました。偶然隣に座った高齢の女性が「風呂敷なんて珍しい」と声をかけてくださり、空港までの道すがら話に花が咲いたこともありました。

お気に入りの本、学生に読んでほしい本

熊本県水俣市を主な舞台とした、石牟礼道子さんの小説『苦海浄土 わが水俣病』です。この本は第一部ですが、第三部まで続き、長編となりました。特に「ゆき女きき書」という章がよく話題になります。かつて「劇症型」と言われた患者さんの語りを、作者の石牟礼が聞き取り小説として昇華しているところや、医学的資料などと患者さんの語りの対置を通して作品が構成されている工夫が感じられる作品です。「他者」の声を聞くとはどういうことであり、どのような意義があるのか考えさせられます。エコクリティシズムの側面からも読み継がれている作品です。



『苦海浄土（くがいじょうど）：わが水俣病』
石牟礼道子著／講談社
〈文庫コーナー：493.152||I78〉

高塚　佳代子 准教授

私の読書・研究スタイル！

特に専門外の論文を読む際に感じる“なんとなくの違和感”や“不自然さ”をあえて深掘りすることが、私の研究スタイルです。もちろん単なる認識不足のこともありますが、その違和感の背後には、理論に補うべき視点や隠れた論点が潜んでいる場合が多く、これまでの経験からも新たな発見や展開につながることを実感しています。

お気に入りの本、学生に読んでほしい本

『数学史のなかの女性たち』は、数学や科学の歴史に名を残した女性たちの生涯を描いた一冊です。その中でもひときわ印象的なのが、エミリー・デュ・シャトレ侯爵夫人。彼女はまさに「研究も人生も全力投球」の人物でした。物理や数学で確かな業績を残す一方、今なら文〇砲に追われそうな（ちょっと笑える）スキャンダルでも話題の中心に。侯爵夫人でありながら、哲学者ヴォルテールとは恋人であり、研究仲間であり、最高の遊び相手でもありました。さらに別の無名詩人との間に子どもを身ごもり、出産と育児を経て体調を崩し命を落とします。突っ込みどころ満載で「コスパの悪い生き方」かもしれませんが、知的好奇心も恋も人生も欲張りに楽しむ姿は憎めません。数学史に関心がなくても、彼女らの生き様そのものがドラマとして楽しめる一冊です。

『数学史のなかの女性たち』
リン.M.オーセン著, 吉村証子訳
牛島道子訳／法政大学出版局
〈閲覧室：410.2||O75〉

日髙　義浩 准教授

私の読書・研究スタイル！

「そこに愛はあるんか？」・・・どこかで聞いたフレーズですね。しかしながら、今回の話題は、その愛ではなく AI です。最近、何かわからないことがあったら「ググる」（＝検索する）ではなく、生成 AI を使って「チャぴる」（＝検索する）人が増えつつあるそうです。

研究するとき、参考文献もですが、AI も重要なパートナーです。私も文章を図化するとき、生成 AI に助けてもうことがあります。ただ、生成 AI は嘘をつきます。これをハルシネーションといいます。そのため、ChatGPT、Gemini、Claude など複数活用して、それを防ぐようにしています。でも、愛をこめて AI は、私に接してきます。愛されたいと AI は人に媚びた回答をするんですよ。騙されないで！

独自スタイル？　白紙とペン、生成 AI と付き合う「批判的思考力」でしょうか。

お気に入りの本、学生に読んでほしい本

生成 AI と会話する、つまり、コミュニケーションを上手く図ることで、生成 AI から望む回答を得ることができます。そのためには、生成 AI を適切に操る能力（＝プロンプトリテラシー）が重要になってきます。人同士がコミュニケーションを図るために言葉が必要なように、生成 AI と付き合うにも言葉（＝プロンプト）が必要です。生成 AI は、私たちが喜ぶような回答を作り出す傾向にあります。「問い」と「指示」によって、生成 AI の答えが変わってきます。どのようなリテラシーが必要？是非、読んで、自分のチカラとしてそれを身につけてほしいと思います。

『AI時代の質問力：プロンプトリテラシー：「問い」と「指示」が生成AIの可能性を最大限に引き出す』
岡瑞起著,橋本康弘著／翔泳社
〈閲覧室：007.13||O36〉

大賀　郁夫 教授

私の読書・研究スタイル！

私の読書スタイルは、気に入った著者の書物を徹底して読み尽くすことです。新書・文庫本では、ある特定の作者に絞って、手に入るだけ集めまくって一気に読みます。しかし、もともとたいへん飽きっぽい性格なので、大概数冊読んでいくうちに「もういいや」という気になって、段々ペースが落ちていき、ぶん投げてブームが終了します。

どちらかというと推理物が好きです。いかに早く犯人を突き止めることができるかを目標に、内容的には犯行の手口や犯人の動機の意外性が評価の対象になります。実際、歴史研究も「歴史」の探求という意味で、探偵と同じ仕事です。

お気に入りの本、学生に読んでほしい本

ガガッと読み込んでポイする自分ですが、一人だけ、未だ飽きずに読み続けている作者がいます。Dame Agatha Mary Clarissa Christieです。

大学１年生の時、Christieの「The Mousetrap（ねずみとり）」をテキストで読んだこときっかけに、「The Witness for the Prosecution（検察側の証人）」がはまる決定打になりました。推理もので犯人も分かっているのですが、再度・再々度読み返しても、毎回新しい発見がありワクワクします。彼女はまさに、ミステリーの女王です。最近読み返しておもしろかったのは、「殺人は容易だ」と「終わりなき夜に生れつく」です。いずれも犯人の心理描写が絶妙です。内容は読んでのお楽しみです。

注意事項を一つ。Christie の主な作品は、現在映画やテレビで再三放映されています。テレビでは David Suchet の Poirot や、Joan Hickson の Miss Marple が有名でしょう。ただし、これらの映像作品は、監督・プロデューサーの「解釈」が強く反映されています。また作品の時間枠の問題もあるでしょうから、省略や改編は仕方ありません。ぜひ「原作」そのものを読んで下さい（登場人物が多いですが）。Christie が表現した 20 世紀初頭の England の田園風景や貴族館など、現代に居ながら「時間旅行」が楽しめます。自分なりの想像力を駆使して、20世紀初頭のイギリスに、「時間旅行」に出かけましょう。

『検察側の証人』
Agatha Christie
（アガサ・クリスティ）著
加藤恭平訳／早川書房
〈文庫コーナー：932.7||C58〉